

第Ⅷ分野（分野横断）の活動状況報告及びご相談

第Ⅷ分野担当

構造計画研究所 冨尾

1. 第Ⅷ分野連携の背景（2021/12/21 委員会の資料 21-2-11 より）

- ・ 土木学会の中長期計画である「JSCE2015」の重点課題の一つとして「学会内活動の有機的結合とその評価」が設定された。
- ・ この課題の中で「研究分野が専門細分化され総合工学としての土木工学が見えにくくなってきている」ことから「研究委員会の統合化や分野横断的活動の積極的な推進」に取り組むことになった。
- ・ 土木学会の調査研究部門に新たに「分野横断型」の分野として第Ⅷ分野を設立し、**地震工学委員会、地下空間研究委員会、地球環境委員会、原子力土木委員会**が新分野にそのまま移動することになった。

2. 原子力土木委員会としての第Ⅷ分野の活用方針（2023/12/21 委員会資料より）

- (1) 第Ⅷ分野として何を目的に活動していくかが重要。
- (2) 目的を明確化した上で、第Ⅷ分野連絡会として主体的に進めていく。
- (3) 原子力土木委員会としての考え
 - ・ 共通の課題に対し、小委員会などを立ち上げる際、お互いの委員会から参加者を募り、協働で運営・管理を進めていくのが良いのではないか。
 - ・ お互いの委員会での実施内容の相互理解を深めるため、双方の委員会や小委員会にオブザーバーとして参加するのが良いのではないか。
 - ・ 具体的な共通課題として、防災または設計超過事象における不確実さを有する事象による影響の表し方を軸に、第Ⅷ分野の連携を検討してみてはどうか。
(例：一般防災と原子力防災の実情や課題・解決策など)

3. これまでの第Ⅷ分野の活動

- ・ 3 か月に 1 回の定例連絡会※1 を開催。
(直近では 2026/3/26 に実施（参考 1 参照）／次回は 2026/6/11 を予定)
- ・ 年に 1 回、拡大連絡会※2 を開催。
 - ※1：各委員会の第Ⅷ分野担当で集まって、最近の連携状況の共有や各委員会の活動共有
 - ※2：委員会間の理解を深める、あるいはキックオフシンポジウムの目的や意識合わせを実施
- ・ 第Ⅷ分野の存在意義、活動目的などを広く周知するためシンポジウムを活用。
 - 2025/3/27 に第 2 回シンポジウムを開催。
 - 第Ⅷ分野が意図する分野横断研究や人的交流をさらに推し進めることを

目的として、一般公開型で開催。

- 各委員会の活動内容の報告と連携に関する議論を実施。
- 活動内容や議論を通じ、対外発信として好評を得た一方、今後は共通課題を軸としたテーマ設定や認知度向上が課題とされた。

4. 今後の方針

これまでの活動で得られたご意見や課題を元に、他委員会と協力して活動を継続する。具体的には、

- 1) 継続的な委員会間の相互理解と活動内容の共有
- 2) 分野連携に関する活動の認知度向上に向けた取り組み
- 3) テーマを絞ったより具体的なテーマや課題に関する活動などを考えている。

これらの共通した施策として、「新たな共通セッションの立ち上げを検討する」という施策が挙げられている。すでに地震工学委員会と原子力土木委員会の共通セッションとして立ち上がっている「地震工学・地震災害」は毎年申請が多く、非常に盛り上がっている。両委員会に関わる研究者も多く、液状化といった共通課題に対し、連携して取り組むことができている。この先行事例に学び、改めて各委員会の取り組みや課題感（キーワード）を知り、理解を深めていくことで、新たな共通セッションが立ち上げられれば、関連する研究者を巻き込み、さらに連携を盛り上げていくことができると考えている。

まずは、年に1回開催している拡大連絡会という場を使って、各委員会で立ち上がっている共通セッションの具体的な研究の内容を持ち寄って議論してみてもどうか。

◆新たな共通セッションの例：地下空間の耐震性（地下空間×地震工学）

参考）https://committees.jsce.or.jp/zenkoku/gaiyo/ses_kyotu#11

また、共通セッション立ち上げ以外にも、第Ⅷ分野連携を促進・活性化させていくための施策として、手段が目的化することには注意しながらも以下にも取り組んでいく。

- 第Ⅷ分野連携シンポジウム(仮称) ※過去に2度開催済み
- 小委員会のオブザーバー参加(仮)／小委員会の共同立ち上げ(仮)
- 各委員会イベントの相互共有

5. ご相談

- ・ 上記方針について、コメントやご意見があればいただきたい。

以上